

ネイパル森

はっぴーすぶりんぐ

1 事業のねらい

春をテーマとしたクラフトやお菓子作りなどの体験活動を通して、親子の絆を深めるとともに、家族同士の交流を図る。

2 事業の概要

- ■期日 R 6.4.6(土)~7(日) 1 泊 2 日
- ■対象 小学3年生~中学1年生及びその家族
- ■人数 13 家族 35 名
- ■場所 ネイパル森

3 プログラム

	13:00 13:20		15:3	30 17	:30 18:00 19:00 19:3				30			22:	00	
1/6	受 付	開会式	活動① 「イースター		活動②	⊅.		タ	夜の	入浴		計宣		
(土)					「春のクラフト」				-	自由時間			就寝	
			・チャレ	ンジ」	(アロマワックスバー)		, •	及	~ "	活動④	準備「エッグペイント」		-I- via	
	7:00 8:00 9:00 9:30						30 1	12:30	:30 13:30					
4/7	起	朝	清掃	部屋点検	活動③		昼	活動	活動④		ふりかえり			
(目)	床	食	など	活動準備		_	食	Гл	「エッグ・ハント」		アンケート	ート解散		
	4/7	4/6 受 (土) 付 7: 4/7 起	4/6 受 開 会式 (土) 付 式 7:00 8:0 4/7 起 朝	4/6 受 開 活動① (土) 付 式 ・チャレ 7:00 8:00 9: 4/7 起 朝 清掃	4/6 受 開会式 「イースター・チャレンジ」 7:00 8:00 9:00 9:00 9:00 4/7 起 朝 清掃	4/6 受 開	4/6 受 開 活動① 活動② (土) 付 式 「イースター ・チャレンジ」 「アロマフックスパー) (アロマフックスパー) 7:00 8:00 9:00 9:30 11: 4/7 起 朝 清掃 応屋点検 活動③ 「春のカラフト」 (アロマフックスパー) 第一清掃 で屋点検 活動③ 「春のお菓子づくり」	4/6 受 開	4/6 受 開 会式 活動① 方の タ 集い 食 (土) 付 式 「イースター・チャレンジ」 「春のクラフト」 (アロマフックスバー) 集い 食 7:00 8:00 9:00 9:30 11:30 12:30 4/7 起 朝 清掃 など 活動() 活動() 「春のお菓子づくり」 会 「工事事業() 「本のお菓子づくり」 会 「工事事業()	4/6 受 開 会式 活動① 活動② タ方の 集い (土) 付 式 「イースター・チャレンジ」 「春のクラフト」 (アロマフックスバー) 集い 食 集い 7:00 8:00 9:00 9:30 11:30 12:30 4/7 起 朝 清掃 など 活動③ 「春のお菓子づくり」 会 「エッグ・ハー」	4/6 受 開 会式 「イースター」 「春のクラフト」 (アロマフックスバー) 集い 食 集い 活動④ 7:00 8:00 9:00 9:30 11:30 12:30 13: 4/7 起 朝 清掃 食 など 「香のお菓子づくり」 食 「エッグ・ハント」	4/6 (土) 受 開 会式 活動① 「イースター 「春のクラフト」 (テロマワックスバー) タ方の 集い 包 事 「活動④準備「エッグペイ」 7:00 8:00 9:00 9:30 11:30 12:30 13:30 4/7 起 朝 清掃 (日) 市掃 (日) 本ど 「活動・進機」 「春のお菓子づくり」 会 「エッグ・ハント」 アンケート	4/6 (土) 受 開	4/6 (土) 受 開 会式 活動①

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- ■対象年齢に合わせた活動内容の選定
 - ・これまでは幼児から低学年を対象としていた。対象年齢を上げて新たな親子事業とするため、活動の難易度を上げることで、 親子で共同作業して取り組む内容とし、会話したり、触れ合ったりする場面を多く設定した。
- ■家族同士が交流する場面の設定
 - ・活動1「イースター・チャレンジ」では、家族同士でのゲーム のほか、複数家族がチームとなり対戦するなど、体験活動を通 して家族間で交流する場面を設定した。



春をテーマとした和菓子作り



春のイベントにちなんだ体験活動

5 事業の評価

■参加者アンケートから、 家族間の交流および家族のコミュニケーションどちらも肯定的な 評価を得ることができ、「親子で取り組むがことができ楽しかった」 「他の家族との交流もできた」等の声があった。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- ●アンケートでは「改めて子どもを愛おしいと感じた」「子 どもの成長を感じることができた」「仲よくなった家族と また親子事業で会う約束をした」との声からも、ねらい が概ね達成できた。
- ○幅広い年齢層や運動能力の差を踏まえ、無理なく安全に 楽しめるような配慮や活動内容を工夫する必要がある。



企画のポイント

対象年齢に合わせたプログラムの選定。参加家族同士が交流できる場面を設定。